

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292400035		
法人名	医療法人NANOグループ		
事業所名	グループホームなずな		
所在地	雲仙市千々石町庚1297-1		
自己評価作成日	平成 31年 12月 4日	評価結果市町村受理日	平成 31年 3月 26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	平成 31年 2月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営が医療法人の為、日中は併設の施設に看護師が常駐し、夜間は、クリニックに24時間常駐しているため医療面での緊急は、素早く対応できる。又、毎日医師が往診に来られる。併設のデイサービスも利用することが出来るので利用者は、閉じこもる事なくのびのびとした生活ができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは各部屋の窓から山々やさくらの木が見渡すことができる閑静な場所に位置している。ホームの窓からは季節の野菜の育ちや収穫を眺めることができ、入居者の楽しみの一つとなっている。敷地内には同法人のデイサービスやサービス付き高齢者向け住宅があり、踊りの訪問がある際にはデイサービスへ見学に行ったり、ホームで毎年開催している夏祭りでは金魚すくいや宝物釣りを楽しむなどの機会を設けている。ホームでは、入居者が重度化した場合に主治医・家族・看護師・職員間で今後の方針を話し合い、看取りの支援に取り組むこととしている。また、看取り期において職員は入居者や家族の気持ちを受け止め、穏やかな時を過ごすことができるよう本人・家族の気持ちに寄り添いながら支援に取り組むよう努めている。ホームでは法人の医師による往診が毎日あり、隣接する事業所には看護師が常駐するなど、緊急時の迅速な対応が可能となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームなずな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念は無いが、法人としての理念が有り、職員みんな実践できるように取り組んでいる。	ホームでは法人の理念である「一人一人の意志及び人格を尊重し自由に安全に生活できる」を食堂に掲げている。職員は、入居者に対して自主的に敬う気持ちや尊厳を遵守する気持ちを持ち、入居者個人に合ったケアの実践に取り組むよう努めている。	職員へのヒアリングにおいて、理念の共有・浸透について課題が窺われた。職員が支援を行うにあたり、例えば理念に沿った具体的な支援目標を職員それぞれで設定するなど、介護意識を高めて日々の支援に取り組まれることに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流はない	ホームは自治会に加入していないが、近隣の小学校から小学校新聞や運動会の案内の提供がある一方、入居者の重度化によりあまり参加できなくなってきている現状にある。敷地内にある同法人のデイサービスへ踊りの訪問がある際には見学に行ったり、ホームで毎年開催している夏祭りでは金魚すくいや宝物釣りを楽しまれたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族に向けて行っているが地域に向けて行っていないので時間を見つけ行えたらと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	色々な意見をいただくことによりより良いサービスが提供できる。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、雲仙市職員・家族代表・管理者・職員の参加がある。会議では入居者の状況・活動報告を行い、双方の意見交換が活発になされ、それを運営に活かしている。但し、運営推進会議についての説明に変化が窺えなかったことや入居者の状況と異なる記載がされていたので、省くことが望まれる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉事務所など日頃から関わっているがこれといった情報交換はない	運営推進会議に雲仙市福祉課職員の参加があり、ホームの実情・ケアの取り組みを知っていたい。ホームには定期的に市福祉課・島原地域広域市町村圏組合職員の訪問があり、介護についての相談を行うとともに困難事例について協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人一人が理解し拘束をしない介護へ向けて実践している	ホームでは玄関を施錠せず、身体拘束は行わない方針としている。但し、緊急やむを得ない場合には身体拘束に関する説明書・経過観察記録・再検討記録・身体拘束実施報告書を付けて本人・家族へ説明し、同意を得た上で島原地域広域市町村圏組合へ必要書類を提出している。身体拘束適正化委員会については運営推進会議を活用し定期開催しているが、運営推進会議記録に未記載となっていた。	ホームには身体拘束廃止に関する指針を設けており、委員会は運営推進会議の際に開催されているが、議事録には未記載となっていたため記載することが望まれる。職員は新人職員を対象とした身体拘束の研修会に参加して以降参加できていないため、2回目の研修会を3月に行う予定としている。また、経過観察記録・再検討記録については詳しく記録することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修など参加し虐待の無い環境作りなど一人一人が意識を高めることで実践に繋げている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在取り組んでいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解・納得していただくよう説明している。不安などある時はその都度対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会は設けていないが意見や苦情があれば職員全員に報告し解決出来るよう取り組んでいる	家族とは運営推進会議を通して交流を図り、入居者の様子や活動を知っていただいている。ホームでは家族からの意見・苦情があった場合には入居者の食事の様子などを写真に収めたものを送付し、安心していただけるよう支援に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が代表者にその都度報告し会議などで報告する様にしている。意見を言いやすい環境を作っている	職員は年2回人事考課表にて自己評価を行い、日頃のケアについての振り返りを行っている。管理者は人事考課表での面談以外にも、職員の人間関係・悩みなどを聞いてアドバイスをしたり勤務の希望を確認したりするなど、働きやすい職場づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が随時報告している。又、個々に仕事を与える事によってやりがいを持って働けるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外問わず積極的に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会に入会しており交流会などを通して向上に取り組んでいる		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話を聞くことで安心して生活していただける様に取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	その都度相談を受け、必要ならば話し合いの場を設け信頼関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人に合った支援の方法を見極めサービスを提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはしていただき利用者が力を発揮できるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近状や状態など密に報告し関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との交流はほとんどないが可能な限り馴染の物は持って来ていただくようにしている	職員は、家族や敷地内にある同法人のデイサービスを利用されている入居者の友人がホームに見えられた際には、食堂のソファでゆっくりと話ができるよう支援に取り組まれている。また、携帯電話を所持されている方の使用についても制限を設けず、家族や馴染みの方との関係が途切れないよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事等を行う事で関わりをもっている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在取り組んでいない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	得られた情報を職員で共有し職員全員で検討している	意思疎通の困難な方について、職員は日頃から表情・仕草を観察し、思いや意向の把握に努めている。買い物などの希望があった時には、近隣のスーパーへの買物支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に生活歴・生活環境を詳しく聞き、日々の生活の中で新たな情報が得られればその都度、共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族・本人に話を聞き把握し会議などで情報交換を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題やケアの有り方について情報交換を行い介護計画を作成している	ホームでは入居者の日々の変化や状態を観察し、職員間でモニタリングを行っている。ケアプランは敷地内にある同法人のデイサービスのケアマネージャーが作成しており、入居者・家族の暮らしの希望を取り入れ、現状に応じたプランとなっている。2月にはケアプランの文言について行政による実地指導を受け、その指導内容を活かしたプラン作成に取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報交換を行い介護計画の見直しに活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて柔軟に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は把握しているが力を発揮できるような支援は行っていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人の為、主治医は変更していただいている。歯科、皮膚科などはかかりつけの専門医へ受診していただいている	ホームは母体が医療機関であることから、入居の際に本人・家族へ説明を行い、かかりつけ医を母体医療機関に変更していただいている。他科への受診については、職員対応での受診支援を行っている。ホームでは主治医による往診や隣接する事業所には看護師が常駐するなど、緊急時において迅速な対応が可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しているので週1回必ず訪問していただき指導を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先と密に連絡を取り情報交換を行っている。退院時の支援についても指導を受けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に説明し希望にそった支援が出来るように取り組んでいる	ホームでは看取りの支援に取り組まれており、管理者は入居の際に入居者の重度化や看取りについて家族へ説明を行い、重度化した場合には主治医・家族・看護師・職員で今後の方針を話し合った上で支援に取り組むこととしている。職員は入居者や家族の気持ちを受け止め、穏やかな時を過ごすことができるよう気持ちに寄り添いながら看取りの支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の勉強会の開催など定期的に職員は訓練を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害訓練の実施など行っている。近所の敷地を避難場所としてお願いすることで協力体制を築いている	ホームでは年2回消防署立ち会いや自主訓練での避難訓練を実施している。また、地震による火災を想定した訓練の際には運営推進会議の委員の方に見学や水消火器の操作を体験していただくなど、有意義な訓練となっている。	防災計画は、現在ホーム独自の計画書へ修正されているところであり、今後職員間での情報共有が望まれる。備蓄品については隣接するサービス付き高齢者向け住宅に約1週間分確保されているが、備蓄品リストの管理や職員間での情報共有について課題が窺えるため、課題に対応した今後の取り組みが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけ・言葉使いに気お付け職員同士気になればその都度注意し合っている	職員は、他の職員の気になる言葉掛けに気づいた際にはその都度注意するよう心がけている。同法人で行われる新人職員対象の接遇研修会への参加や人事考課表に接遇の項目があり、職員の振り返りが実施されていることが窺えた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来よう会出など希望があれば対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が利用者と一緒に衣類など選びおしゃれ出来るよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、宅配サービスを利用しているので行っていない	食事は宅配サービスを利用している。お裾分けやホームの菜園で収穫した野菜がある場合には品数を一品増やしたり、ゼリーやプリンなどの手作りのおやつを提供するなど入居者の楽しみに繋げている。職員は入居者が持ちやすい食器を使用して自分で食事ができるよう支援に取り組んでおり、米とぎや台拭きを手伝っていただくなど、入居者ので残存能力を活かすよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病気などふまえその人にあつた量、水分量の支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が口腔ケアを促し出来る限り本人にしている。必要な場合は介助で行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在立位が困難な利用者が多い為、なかなか難しい	職員は排泄チェック表を用いて入居者の排泄状況の把握に努めている。入居者の重度化に伴いトイレでの排泄が困難となってきているが、職員は入居者一人ひとりに合わせた排泄用品を検討するとともに、家族の経済的な負担軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師に相談し消化に良いものの提供などで予防している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は特に決めていない。希望があれば本人の状態を確認し支援している	ホームでは週3回入浴支援を行っており、シャワーキャリーを使用するなど安全に留意した支援を心掛けている。入浴を拒否する方については職員が声掛けを行い入浴していただいているが、本人の気分に沿わない場合には無理なく翌日に入浴できるようにしている。浴室や脱衣場はあらかじめエアコンで温めておくなど配慮し、入居者が気持ち良く入浴できるよう支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休息していただいている。本人のペースを大切にしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を作成している。服薬出来ない利用者は職員が介助している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じ支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出機会は少ないが天気を見て散歩など外出している	職員は、入居者の希望があればスーパーの買い物への同行支援を行っている。天気の良い日には近隣に散歩に出掛けて外気浴を行い、気分転換を図っている。また、家族と近隣の食堂へ一緒に出掛けるなど、気分転換や親子の時間を楽しむことができるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族・本人の承諾を得て事業所で管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の関係性に応じテーブルの配置など工夫している。気持ちよく生活していただくよう毎日きれいに掃除している	ホーム玄関に入ると季節の花が生けてあり、入り口付近に設置された椅子からは靴の脱ぎ履きがしやすいような配慮が窺える。食堂の壁面にはひな祭りの画が飾られ季節感を感じることができるほか、広い廊下には手摺が設置され、歩いてリハビリをするスペースが設けられている。共用空間は窓の開閉を定期的に行うことで換気されており、不快な臭いもなく掃除も行き届いており、居心地良く過ごせる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなど置くことで思い思いに過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具など馴染の物を持って来ていただくよう説明しているが実践にはなかなかつながっていない	居室にはエアコンとベッドが備え付けられており、入居者の馴染みの整理ダンスや置時計、ホーム誕生会での造花の花束、誕生カードの写真が飾られ、本人が居心地良く過ごせるよう工夫がなされている。尚、訪室時にオムツやパットなどが見えていたため、できれば目隠しを行うなどの配慮が望まれる。また、日中使用しないポータブルトイレについても目隠しを行うなど、居室空間の整備がなされることに期待したい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活ができるよう必要に応じた工夫を行っている		